

新幹線車内業務見直し、36協定特別条項… 組合員の要求・心配事があっても、 会社の主張を押し通すユニオン指導部！

J R 東海ユニオン第32回中央委員会が行われました。リニア中央新幹線建設費捻出のために、年々労働条件が悪化する中、現場で働く社員は疲弊しています。その現状に対し、何とか改善を求める発言が、委員会の中で出されました。

新幹線車掌が3人から2人に変更となる。会社は安全の確保・サービスレベルを維持できていると思うのだろうか。パーサー業務が拡大する。サブマネージャーの並行販売をやめて、パーサー業務に専念することを強く求めたい。J R 東海パッセンジャーズ（J R C P）は慢性的な要員不足により、多くが休日出勤を強いられている。このままでは **J R C P への出向は要員不足解消のため**ということになる。会社が目的としている乗務員の知識・技術・技量の継承には程遠く、**組合員を苦しめることになる**と考える。

関西

（36協定の年間上限540時間の特別条項の）提案は妥結に至るも、各職場では「不払い残業が残っている」の声があるのが現状だ。目標の超勤時間を上回ってしまった場合、適切に申告しづらい雰囲気職場がまだあると聞いている。業研やプロジェクト、技術課題など本来業務以外の活動に追われている組合員も多数いる。本当に **将来的に特別条項の解消ができるのかという不安の声**を上げる組合員が厳然として存在している。

新幹線

この発言に対し、尾形書記長は総括答弁で、新幹線の安全や J R C P の要員不足の問題には沈黙したままです。それどころか、J R C P 出向に、本心は「何で俺が選ばれたのか」と悶々としていた組合員を説得した分会役員を評価し、「助け合いの気持ちを高め」ようと訴えているのです。また、36協定の特別条項の解消にしても、組合員の不安に答えず、解消のための闘いを具体的に提起していません。まるで、会社の主張を組合員に浸透させるための答弁でしかありません。